

お米がつなぐ笑顔の輪

宮崎市立宮崎中学校 2年 高口 楓華

「お米届いたよ。」毎月聞く言葉です。

私は、お米を買ったことはありません。なぜなら、香川に住んでいる父方の祖父母がお米や野菜をつくっており、定期的に送ってくれるからです。

お米をつくってくれている祖父母は自分たちの田んぼや畑をとっても大事にしています。代々受け継がれてきた田んぼだそうです。私が小学生の頃、夏休みに香川に一か月程泊りに入ったときに、強めの台風が接近してきました。祖父母は自分たちが作っているお米に被害がないかとても心配していました。幸い大きな被害はなかったのですが、この出来事でお米に対する祖父母の気持ちがわかったような気がしました。祖父母はお米を作ることを生きがいとしています。農作業をしている時の祖母は、大変そうな反面、とても楽しそうです。ですが、お米を作ることは、簡単なことではないとわかり、祖父母が汗水垂らして大切につくったお米を食べられることはとてもうれしいことだと改めて感じました。

また別の年に、一人で香川に行った際、宮崎の自分の家にお米を送る作業の手伝いをしました。お米を収穫し、精米し、箱につめ、他にも様々な作業をしていました。私たちのために、毎月この作業をしてくれているのかと思うと感謝の言葉しか浮かびませんでした。

お米が送られてくるときにはいつも、別のものも一緒に送られてきます。それは、旬の野菜や、冬にはブランケット、夏には夏バテ防止の食べ物、いろいろな物が送られてきます。そこにはたくさん思いやりがつまっています。毎回、「今回は何を入れてくれているのかな。」とドキドキしながらダンボールをあけ、あけた後にはいつも笑顔になっています。いつもお米は笑顔を運んでくれます。

お米が届くと、いつも祖父母に電話をします。「ありがとう。」そう言った後は、最近あった出来事を話し、私たち家族も祖父母も笑顔になっています。香川と宮崎のため、頻繁に会えるわけではありません。ですが、私たち家族は毎月届く祖父母のつくったお米のおかげで笑顔や元気をもらっています。祖父母が一生懸命つくったお米は本当においしいです。そのお米は、そのまま食べたり、オムライスで食べたり、炊き込みご飯で食べたり、炒飯で食べたり、雑炊で食べたり、いろいろな食べ方をします。これもまた、お米がたくさん楽しさや笑顔をつくってくれます。私は、食べるのが大好きです。笑顔を運んでくれるお米が大好きです。疲れて家に帰ってきてもお米を食べれば元気になります。代々お米がつかられ、きつとそこに笑顔もうまれてきたのだと思います。ですが、日本全体で田んぼが減っているそうです。いろいろな理由があり、しょうがないことではあるけれど、とても悲しくなりました。和食にもつかわれる美味しいお米をこれからもずっと食べていきたいです。家族の笑顔

をつくってくれるお米は、私の大切なものです。お米のおかげで家族、香川にいる祖父母とつながりを感じることが出来ます。お米を食べることができると、お米をつくってくれる祖父母に感謝して、今日も明日も明後日も笑顔で美味しいお米を食べていきたいです。

「お米届いたよ。」今月もお米と笑顔が届きました。